

第6回 地方鉄道向け無線式列車制御システム技術評価検討会 概要

1. 日 時 : 令和5年10月30日(月) 14:00~16:00
2. 場 所 : 中央合同庁舎3号館6階 鉄道局大会議室
3. 出席者 : 中村日本大学名誉教授、古関東京大学教授、高橋日本大学教授、
研究機関、関連団体、鉄道事業者、国土交通省鉄道局、日本信号株式会社
4. 結果概要 :

日本信号から、地方鉄道向け無線式列車制御システムについて、進捗状況や現車試験の試験項目・内容の報告が行われた後、意見交換を実施した。

委員からの主な発言は以下の通り。

- P3について、地方鉄道が抱える保守の課題は信号設備だけでなく、軌道・電路設備でも同様に課題を抱えており、自列車の位置情報がわかる本列車制御システムは信号設備以外の分野でも、保守メンテナンスでの貢献が期待できる。
- 自列車の位置がわかるため、列車の振動のデータから、軌道の保守が必要な場所を見つけることができ、軌道分野における保守の効率化が図れる。また、営業列車の位置がわかるならば、列車監視員の数を減らすことも可能であり、営業時間中の実質の作業時間を増やすことも可能となる。
- 「2.4GHz帯を用いた汎用無線」の場合は鉄道事業者が通信機器を保有してメンテナンスする必要があるが、「通信会社が提供する公衆無線」の場合は、主要設備のメンテナンスは通信会社が行う等、双方の差異について、説明した方がよい。
- 速度発電機1台+補助手段が最終形なのであれば、その状態での安全性評価まで実施する方向で検討すること。